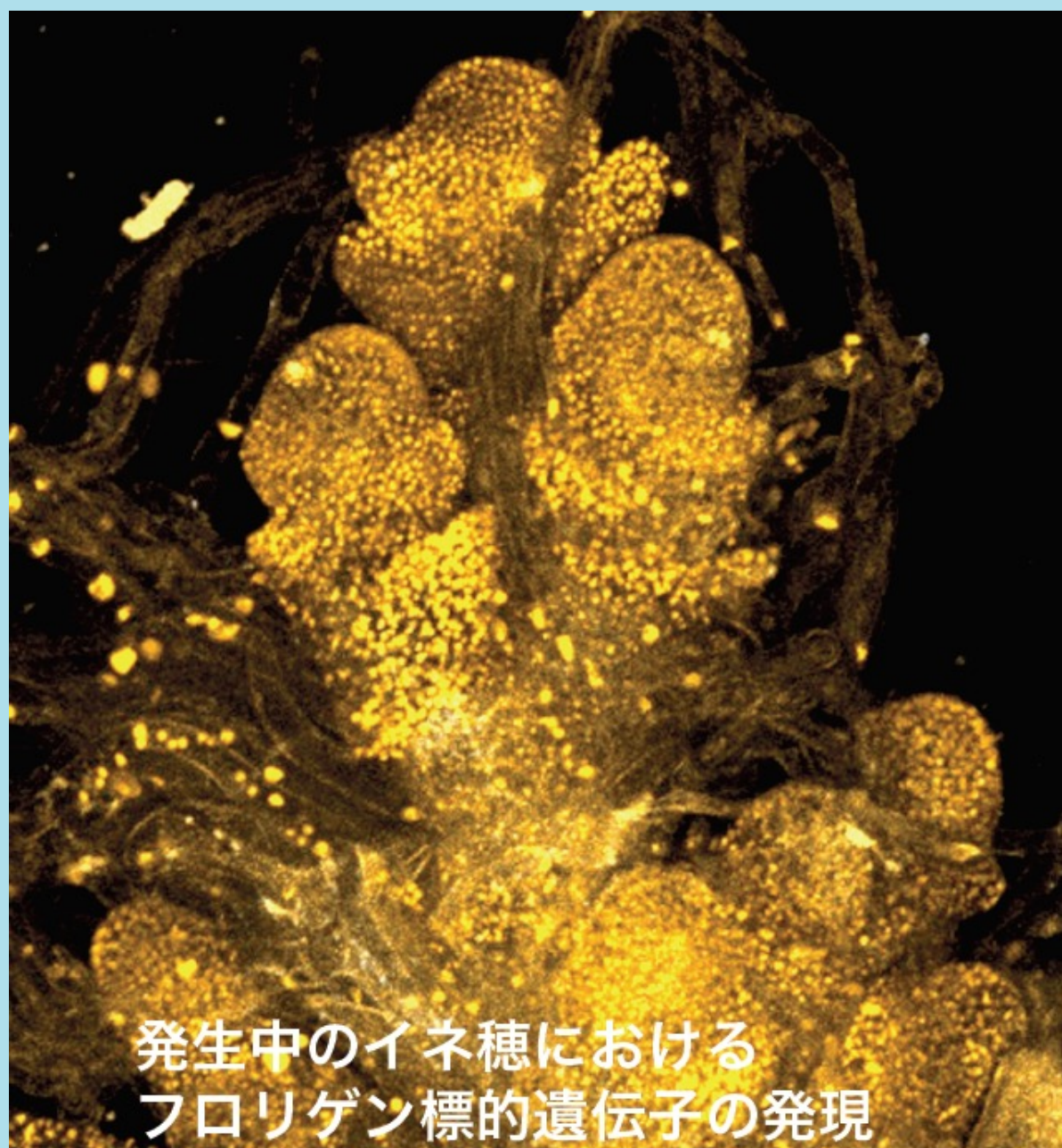


花芽を作る植物ホルモン・ フロリゲンの分子機能

日時：8月5日（金）

14:00～15:30

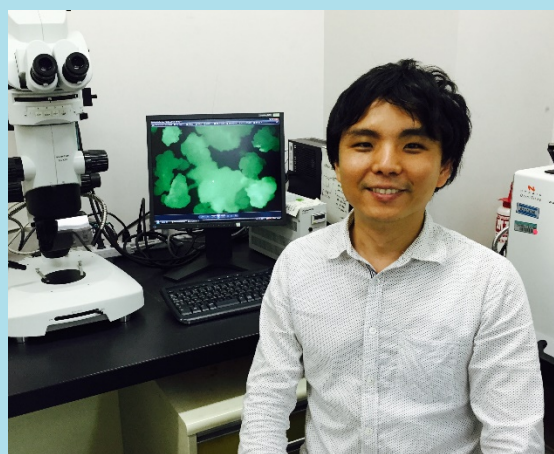
場所：理学部E館1F E131号室



発生中のイネ穂における
フロリゲン標的遺伝子の発現

フロリゲンは植物の花芽分化を開始させる強力な運命決定因子です。フロリゲンは植物が葉で環境の変化を認識し、生殖過程を始めるのに適した季節の到来を予期した時に葉で合成され、その後実際に花芽の作られる茎の先端まで輸送されて機能します。花と実りをもたらすフロリゲンは世界中の研究者を引きつけ、長い間その正体を解明するための研究が行われてきましたが、フロリゲンの分子実体は謎のままでした。しかし近年の分子遺伝学研究の成果から、今ではフロリゲンはFTと呼ばれるタンパク質であることが明らかにされています。ただ正体があった後も、フロリゲンがどのようなメカニズムで花芽分化を開始させるのかは謎でした。

私たちはフロリゲンの細胞内受容体を発見し、さらにフロリゲンの活性本体となる核内の転写複合体を同定することで、フロリゲンの分子機能の中心的な部分を解明してきました。さらに世界でも唯一のフロリゲンの生体イメージング系や、フロリゲンが作用する茎の先端の幹細胞領域（茎頂メリステム）の大規模解析系を独自に開発することで、フロリゲンの新しい分子機能を解明しようとしています。ここでは、私たちの最近の研究から明らかになったフロリゲンによる成長相転換の全体像とそのメカニズムについて紹介します。



講師

辻 寛之博士

（横浜市立大学・木原生物学研究所 准教授）

連絡先： 野田口 理孝 名古屋大学大学院理学研究科 生命理学専攻
notaguchi.michitaka@b.mbox.nagoya-u.ac.jp (内線 6401)

積極的なご参加お待ちしております。